

出題意図

本設問は、受験者の読解能力及び論理的思考力、文章能力の 3 点を測ることを目的としている。具体的には、問いの意図と文章の論旨について正しく理解しているか、重要な概念や因果関係を正しく把握した上で議論が展開できているか、読み手に伝わる文章としての的確に表現できているか、の 3 点が評価対象となる。

(1)本問では、あらゆる面から投資が回復して当然と見られているのに投資が伸び悩む「長期停滞」の主要な特徴を、本文の議論に即して把握することが期待される。

(2)本問では、無形投資に特有の「スケーラビリティ」と「スピルオーバー」が投資インセンティブに及ぼす影響を理解し、先進企業と平均的企業の収益性格差がどのように拡大するかを本文の内容に即して説明することが期待される。

(3)全要素生産性（TFP）の成長が低下している背景として、無形投資のスピルオーバーやスケーラビリティが企業や経済全体に与える影響を整理し、2000 年代中盤までとの違いを本文の指摘に基づいて説明することが期待される。

(4)本問では、図 2 を用いて、無形投資集約度が高い国の製造業とそうでない国の製造業との生産性格差の違いを読み取り、図が何を検証しているのかを端的に示すことが期待される。